

平成27年度財務書類について

企画政策部

1 はじめに

財務書類とは、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4つの表を指しており、「地方公共団体の説明責任の履行」と「財政の効率化・適正化の促進」を目的としている。

本市では平成20年度決算から総務省方式改訂モデルで財務書類を作成していたが、複数の会計基準があり、団体間比較が困難などの課題があった。

そのため、平成26年度に総務省から新基準「統一的な基準」が示され、全ての地方公共団体は平成29年度末までに統一的な基準に準拠した財務書類の作成が必要となった。

本市では、平成27年度決算から統一的な基準に準拠した財務書類を作成したので報告する。

2 総務省方式改訂モデルと統一的な基準の比較

(1) 発生主義・複式簿記の導入

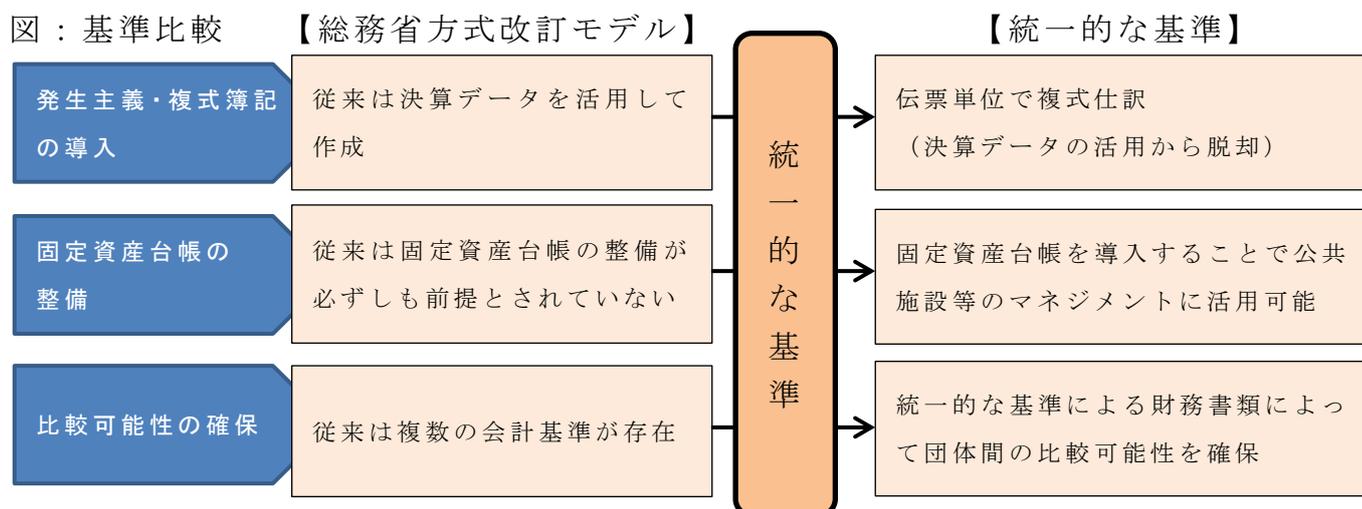
総務省方式改訂モデルは決算データを活用して財務書類を作成していたが、統一的な基準では伝票単位で複式仕訳を行い、発生主義会計を導入する。

(2) 固定資産台帳の整備

総務省方式改訂モデルでは必ずしも固定資産台帳の導入が前提とされていなかったが、統一的な基準では固定資産台帳の整備が必須となり、公共施設等のマネジメントにも活用可能となる。

(3) 比較可能性の確保

従来、地方公会計制度の会計基準は様々な基準が存在していたが、平成29年度末までに全ての地方公共団体が統一的な基準による財務書類を整備するため、団体間の比較可能性が確保される。



3 財務書類における主な数値

(1) 貸借対照表

会計年度末（3月31日）時点（出納整理期間中の増減を含む。）における資産や債務に関する情報を示すもので、表の構成は、左側に資産を、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示する。

〈資産〉 (単位：千円)

| | 一般会計等 | 君津市全体 |
|--------|-------------|-------------|
| 平成27年度 | 129,837,383 | 147,067,731 |

〈負債〉 (単位：千円)

| | 一般会計等 | 君津市全体 |
|--------|------------|------------|
| 平成27年度 | 27,688,780 | 36,377,631 |

(2) 行政コスト計算書

経常的な活動にともなうコストと使用料・手数料等の収入を示すもので、経常費用から経常収益を差し引いたものが当該年度の純経常行政コストとなる。

(単位：千円)

| | 一般会計等 | 君津市全体 |
|--------|------------|------------|
| 平成27年度 | 27,240,404 | 43,656,827 |

(3) 純資産変動計算書

純資産（資産から負債を引いた残余）が一会計年度にどのように増減したかを明らかにするものであり、総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源で増減したかを表示する。

(単位：千円)

| | 一般会計等 | 君津市全体 |
|--------|-------------|-------------|
| 平成27年度 | 102,148,603 | 110,690,100 |

(4) 資金収支計算書（キャッシュフロー計算書）

資金の流れを示すものであり、その収支の性質に応じて区分することで、どのような活動に資金を必要としているかを表す。

(単位：千円)

| | 一般会計等 | 君津市全体 |
|--------|-----------|-----------|
| 平成27年度 | 1,741,891 | 3,600,468 |

4 おわりに

作成した財務書類の各指標を算出したところ、健全な値を保っていることがわかる。今後も財務書類の活用を進め、類似団体との比較や経年比較によって、客観的な財政状況の分析を行うことで、財政運営に役立てるとともに、市民に分かりやすい財務情報を提供する。